

さいたま市長年頭記者会見

平成27年1月6日（火曜日）

午前11時00分開会

- 進 行 定刻となりましたので、市長年頭記者会見を始めさせていただきます。  
それでは、記者クラブ幹事社の埼玉新聞さん、進行をよろしくお願いたします。
- 埼玉新聞 1月の幹事社を務めます埼玉新聞と申します。あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひします。
- 市 長 よろしくお願ひします。
- 埼玉新聞 それでは、早速ですが、市長から年頭の挨拶をお願いします。

## 市長年頭あいさつ

- 市 長 皆さん、明けましておめでとうございます。皆様には、健やかに新年をお迎えのこととお喜びを申し上げます。

旧年中は、市政各般にわたりまして、ご理解、またご協力をいただきまして、まことにありがとうございました。今年もしっかり頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

昨年の記者会見の際には、「今年1年の漢字」を1文字で表すと、ということで、飛躍の「躍」という字をあてさせていただきました。昨年若田光一宇宙飛行士が日本人初の国際宇宙ステーションの船長として宇宙に長期滞在され、任務を無事に遂行し、帰還をされました。8月に実施しました祝賀パレードでは、市民の皆様をはじめ、大変多くの方の歓迎のもとに祝福を受けられたことは大変印象に残っております。昨年は、まさに飛躍の「躍」にふさわしい年であったと思っております。

今年はいっしう年でありまして、羊に羽をつけて、さいたま市が宇宙まで高く飛び上がる飛翔の年にしていきたくと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

まず、さいたま市の昨年を振り返りますと、2月には記録的な大雪によりまして、農作物やビニールハウスなどの施設に大変大きな被害がございました。（また、）4月には突風、竜巻の発生、さらに10月には台風18号、

19号が関東地方を横断するなどの自然の猛威に見舞われた年でもございました。

全国的には、8月には広島市で次々と積乱雲が発生するバックビルディング現象が起きたと言われる集中豪雨によりまして、大規模な土砂災害の発生、また11月には長野県北部を震源とする震度6弱の地震の発生など、予測困難な自然の脅威を目の当たりにした年でもございました。

さいたま市では、本市で最も大きな被害をもたらすと予想されております首都直下型地震を中心に被害想定を見直し、市、区、また中学校区の3部構成の「防災カルテ」を作成したところであります。

スポーツ界に目を転じますと、浦和レッズが優勝を目前にしなが、残念ながら最終戦に敗れリーグ2位という結果となりましたけれども、ACL、アジアチャンピオンズリーグへの出場権を獲得するなど、一定の成果を上げたシーズンであったと思います。

しかし、大宮アルディージャは最終戦に勝利はしたものの、勝ち点わずかに及ばず、2005年から10シーズンにわたり守り続けましたJ1から降格をして、今年はJ2となり、J1復帰に向けて頑張っていただけのもと考えております。

一方で、浦和レッズレディースがプレナスなでしこリーグにおきまして、ホーム駒場スタジアムで年間優勝を果たし、「サッカーのまちさいたま」にまた1つ大きな勲章をもたらしてくれたものと考えております。

また、昨年10月には、一昨年に引き続き世界のトップレーサーを招きまして、「ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム presented by ベルーナ」を盛況のうちに開催することができました。ほかにも「ISU世界フィギュアスケート選手権大会2014」、ブラインドサッカーの国際大会「さいたま市ノーマライゼーションカップ」など国際的なスポーツ大会を開催し、「スポーツのまち さいたま市」を国内外へ広くアピールすることができたものと考えております。

一方、さいたま市政におきましては、官製談合違反等の被疑者として市職員が逮捕されるというあってはならない事態が生じました。このことに対しましては、改めて市民の皆様にお詫びを申し上げ、今後このようなことがないように職員の綱紀粛正の徹底を図り、全力を挙げて市民の皆様の

市政に対する信頼の回復に努めていきたいと考えております。

さいたま市におきましては、地域経済の活性化、都市の機能性、利便性の向上、都市イメージの向上を図り、市民、企業の皆様から「選ばれる都市」を実現していくために、7つのプロジェクトから成る「さいたま市成長戦略」を4月に発表いたしました。

7月には、その成長戦略の一つとして、ドイツバイエルン州の産業クラスターと医療機器分野におきまして相互協力の覚書を締結させていただきました。

また、8月には、長年懸案でありました大宮区役所移転に関する県との土地交換につきまして、県と正式に契約を締結できたことから、今後は大宮区役所新庁舎の早期完成を目指すとともに、大宮駅周辺のまちづくりについてスピード感を持って推進していきたいと考えております。

教育の分野では、市立大宮西高校を改編し、県内初の6年制の中等教育学校を開設することを発表いたしました。また、全国学力・学習状況調査においても小、中学生の学力レベルでは全国平均を大きく上回るという結果をもたらすことになり、今後も「日本一の教育都市」を目指していきたいと考えております。このように、昨年は飛躍の「躍」にふさわしい、そんな年だったと思っております。

それでは、今年はどうかということでありますけれども、さいたま市はこの人口減少社会において、昨年の人口では126万人を突破するという形で、引き続き人口の増加を続けております。また、さいたま市民の8割を超える方が今の地域が住みやすいと感じ、今後も住み続けたいと考えていただいております。引き続き、将来を見据え持続的に発展していけるような施策を積み重ねて、「しあわせ実感都市 選ばれる都市 さいたま市」の実現を目指してまいります。

今年、3月14日に北陸新幹線が金沢駅まで延伸し、また「上野東京ライン」が開通して、宇都宮線、高崎線と東海道線との相互直通運転が可能となります。交通の利便性がさらに高まり、さいたま市の役割、また位置づけがさらに高まっていくと考えます。また、東日本の交通結節点としての優位性がさらに高まってくると考え、こうしたものを生かして、さらにまちづくりにしっかりと取り組んでいきたいと考えております。

また、新大宮上尾道路が平成27年度中に圏央道まで開通する予定となっております。今後は、首都高速埼玉大宮線と圏央道を結ぶ自動車専用道路の実現に向けて取り組みを推進してまいります。

また、大宮駅、さいたま新都心駅周辺や浦和駅周辺地区におきましては引き続き無電柱化を推進し、歩行者空間の確保を図りながら、都市防災対策や都市景観の向上に努めていくとともに、自転車利用や安全確保の必要性が高い路線を中心に自転車通行空間の整備を進めてまいります。

子どもと親のしあわせ倍増に向け準備を進めております（仮称）子ども総合センターにつきましては、平成27年中に建設工事業者を選定し、その後建設工事に着手するほか、認可保育所、放課後児童クラブの増設にも取り組んでまいります。

自然・環境の分野につきましても、桜区に建設を進めてまいりました新クリーンセンターが4月1日から稼働をいたします。ごみの焼却熱を高効率で回収し発電を行うとともに、リサイクルセンターや余熱を利用した温浴施設なども併設いたします。

昨年3月末に稼働した岩槻区の長宮地区に続きまして、今度は緑区間宮地区に市内2カ所目となるメガソーラーの事業候補者が決定したところであり、市立学校への太陽光発電及び蓄電池の設置や市有施設の屋根貸しを行いながら、太陽光発電の設置とあわせて、「まちなか発電所構想」の実現に向けた取り組みを推進してまいります。

また、地域活性化総合特区の取り組みの一環として、浦和美園地域にみそのウイングシティのまちづくりの拠点となります「（仮称）アーバンデザインセンターみその」の開設に向けた準備を進めてまいります。この「（仮称）アーバンデザインセンターみその」は、浦和美園地域で民間企業と連携して整備を進めているスマートホーム・コミュニティと連携した地域のエネルギー利用の最適化のみならず、産学公連携によりましてさまざまなコミュニティサービスを新たに創出し、提供をしてまいります。

これらを通じまして、当該地区における魅力あるライフスタイルを確立し、定住人口の増加とブランディングを図ることで、安心・安全で快適・便利なさいたま市の強みを浦和美園全域への波及はもとより、市内全域、さらには国内外へ波及させることを目標として積極的に取り組んでまいります。

たいと考えております。

こうした「しあわせ倍増プラン」と「成長戦略」を下支えする「行財政改革推進プラン」につきましても、平成25年度の実績では全体の9割が目標を達成している状況であります。現状に満足することなく、より多くの事業の目標を達成すべく、引き続き「高品質経営市役所」を目指し、全力で取り組んでまいります。

今後も「ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」や、今年中の開催に向けて検討を進めております国際大会の代表選手選考競技会となりますマラソン大会、2016年に開催に向けて準備を進めている国際芸術祭「さいたまトリエンナーレ2016」、また2017年の「第8回世界盆栽大会」、2020年東京オリンピック・パラリンピック大会といった国際的なイベントの機会を通じまして、「スポーツのまち」、また「文化芸術都市」としてのブランド力を高め、本市の存在感あるいは魅力といったものを国内外に発信してまいりたいと考えております。

本年もさいたま市が住みたい都市、また選ばれる都市を目指していくとともに、希望と絆に溢れ、飛翔できる1年になりますよう全力で取り組んでまいりますので、皆様には一層のご支援、ご協力をお願い申し上げ、平成27年年頭に当たっての私の挨拶とさせていただきます。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

- 埼玉新聞      ありがとうございます。それでは、幹事社として代表質問をさせていただきます。

**幹事社質問：①「今年の漢字」を1文字あげるとすれば。**

先ほど、市長が今、昨年の総括と今年の目標とをお話いただきましたが、年頭の今年の漢字をあえて1文字挙げるとすれば何という字で、そこにどういう思いを込められているか、ちょっと教えていただきたいんですが、お願いします。

- 市長      まず、今年の漢字は先ほども少し挨拶の中でも触れましたけれども、飛翔の「翔」という字です。羊へんに羽という字を書く、そういった年にしたいと思っておりますし、またなると思っております。

その理由は、先ほどもお話を申し上げましたが、やはり3月に北陸新幹線の開通、また宇都宮線、高崎線の上野東京ラインが開通して、東京駅あるいは神奈川方面にまでシームレスにつながっていくということによって、交通の拠点性がさらに高まっていくという、さいたま市にとってさらに大きく飛躍ができる大きな大きな機会に恵まれた年になるということで、そういったチャンスを逸することなく、しっかり活用して、さらに持続可能な成長発展を遂げられる都市になっていきたいと思っております。

**幹事社質問：②この1年間で特に力を入れて取り組みたい課題は。**

○ 埼玉新聞      それから、今年の抱負の漢字に関連してなんですが、今年行う事業等をいろいろ挙げていただきましたが、この1年間で特に力を入れて取り組みたい課題や目標などがありましたらお聞かせいただきたいと思っております。

○ 市 長      それでは、ご質問にお答えします。

先ほどのご挨拶の中でも申し上げましたが、今年の市政運営として幾つかの取り組みを申し上げました。どれも大変重要な点ですが、特に今後やはり少子高齢化、そして人口減少といった社会問題への対応が大変重要であると考えております。本市の人口は、平成37年をピークにその後は減少していくということが推計されております。今後は、そういった将来を見据えて、定住人口あるいは交流人口を増やして、まちの活力を維持発展させていくことが重要であると考えております。

そうした中で、特に「子育てが楽しいさいたま市」を実現するために、認可保育所あるいは放課後児童クラブの増設によります待機児童の解消をはじめとして、これだけではなくて親と子の絆を深める、そういった子育て支援を充実させて、引き続き、まさに子育て世代の皆さんに住んでいただきやすい都市を目指していきたいと考えております。

また、高齢になっても地域の中で元気で暮らしていける社会を実現するために、体の健康だけではなくて、人々が生きがいを持って、また心豊かに生活を送れる、また地域の中で積極的に社会参加ができる、「健幸」(づくりを目指すための)です、「スマートウェルネスさいたま」という取り組みをさらに今年度から強化をしていきたいと考えております。

そのほか3月14日に北陸新幹線、また東北縦貫線が開業したりすることにあわせて、それを一つの起爆剤として、さらにいろいろなまちづくり、大宮駅周辺を含めたまちづくりの強化を進めていきたいと思っています。

また、先ほども後半で申し上げましたツール・ド・フランスさいたまクリテリウムあるいは世界盆栽大会、さいたまトリエンナーレ、東京オリンピック・パラリンピックといった国際的なイベントが今年度以降めじろ押しとなってまいりますので、こういった国際的なイベントを効果的に推進して、本市が国際社会への貢献を果たすとともに、国際社会の中で活躍できるグローバル人材といったものを育成していくための英語教育の充実、また強化施策を計画しているところであります。

こういった取組を進めていながら、こういった施策を積み重ねながら、2020年までに今の地域が住みやすいと感じていただける方、今は8割ちょっと超えたところではありますが、9割を超える市民の皆さんにそう言ってもらえるような地域を目指していきたい。これを「CS90運動」と名づけて、全庁挙げて、また全市を挙げて取り組んでいきたいと思っております。

#### 幹事社質問：

③昨年の衆議院議員選挙結果の受けとめと国会や安倍政権に期待することは。

④衆議院選挙は統一地方選に影響があるかと考えるか、また統一地方選では特定候補者等を支援する考えはあるか。

#### ○ 埼玉新聞

もう一問あります。次はですね、昨年末に行われました衆議院選挙と、それから今年春に予定されている統一地方選挙に関する質問になります。自民党と公明党が3分の2を超える議席を守った衆議院選から1カ月近くたちました。昨年末には特別国会招集され、総選挙を経た安倍政権が本格的に動き出しています。市長は、今回の選挙結果をどのように受けとめていますか。そして、国会や与党、安倍政権にはどのようなことを期待しますか。特に地方政治との関係で要求したいこと等があれば、お聞かせくだ

さい。

それからですね、統一地方選についてです。この衆院選を受けて、春には統一地方選挙が控えています。衆議院選挙の結果は、統一地方選挙にも影響を与えると考えていますか。影響があるとすれば、どのようなことでしょうか。

さらに、さいたま市議選、県議選のさいたま市内の選挙区で、市長は特定の党や候補者などを支援する考えはあるのでしょうか。もしあるとすれば、どのような基準で支援する候補者等などを決めるのでしょうか、お聞かせいただきたいと思います。よろしくお願いします。

## ○ 市 長

それでは、幹事社のご質問に順次お答えをしたいと思います。

まず、総選挙の結果についてということですが、与党、自民党、公明党の勝利は、安倍政権が掲げたアベノミクスをはじめとした経済対策について、国民の皆さんが一定の評価をしたということではないかと考えております。一方、野党については、有権者の皆さんに政策、対案といったものを十分に説明することができなかった、またそのための時間がなかったということが言えるのではないかと考えています。

特に投票率に関して、小選挙区では戦後最低の投票率であります52.66%となったことについて、政治そのものへの関心の低さがあらわれたものということで危惧をしているところであります。日ごろから市民の皆様の政治への意識を高める努力が今後も必要になると改めて認識をしたところであります。

次に、安倍政権に求めることについてでございますけれども、デフレ脱却を目指した3本の矢と言われる大胆な金融政策、積極的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略といったわかりやすいコンセプトについては評価をできると考えております。これらの政策を実行することによって、株価、また経済成長率、企業業績、雇用等、多くの経済指標が改善してきていると考えております。しかし、一方で回復まで至っていない、地方の中小企業、また急激な円安の影響を受けている企業なども多数あるのは事実でございます。経済の好循環の実現、活力ある地方の創生、女性が活躍する社会の実現、地方分権改革の推進などの諸課題に対して、引き続き国民や地方の声をしっかりと聞いて、また応えていただきたいと思っております。



す。

さらに、国民生活、市民生活に直結する平成27年度予算編成におきましては、景気回復の実感を全国津々浦々に届ける、地域の実情に合った取り組みに期待をしたいと思っております。

次に、地方との関係で要求をしたいことですが、地方との関係でいいますと、やはり地方創生について期待をしております。地方創生に関する交付金につきましては、昨年末の国の総合戦略として盛り込まれ、1月9日に補正予算の閣議決定がなされると伺っております。本市では、いち早く昨年末に全庁へ交付金対象となり得る事業について検討を開始するよう指示をしており、積極的に活用したいと考えております。

しかし、この交付金の算定に当たりましては、転入人口や年少人口、あるいは就業率などの外形因子、指標だけではなく、地域のみずからの努力で達成されたものについては、きちんと評価をしてもらう制度設計をお願いしたいと考えています。

次に、総選挙の結果が統一地方選挙にも影響を与えるかということについてのご質問にお答えをしたいと思います。国政選挙の場合は、政党を中心とした選挙ということでありまして、地方選挙と少し違くと私自身は考えております。

一方で、地方選挙は候補者と有権者の関係が非常に身近でありますので、その中で候補者に対する判断をそれぞれの有権者がされて投票されるということになっていくのだらうと思っております。そういう意味では国政選挙の結果がダイレクトに統一地方選挙の結果に反映されるということではないと考えております。

続きましてのご質問ですけれども、統一選挙、市議選に向けて、市長は立候補される候補あるいは政党に対して支援をする考えがあるかというご質問についてお答えをします。私は従来から市民のしあわせ実現のためには、特定の党派に偏らない立場で多くの市民の皆さんの声に耳を傾けて、市民の皆様と一緒に行動していくことが大切であると訴えております。また、一昨年行われました市長選挙でも、特定の政党に支援を求めずにボランティア選挙を貫いてまいりました。統一地方選挙への対応については、基本的には特定の党派には偏らずに、私と同じ理念、方向性を持たれてい

る方については何らかの支援あるいは協力をしていきたいと考えております。

以上です。

○ 埼玉新聞

ありがとうございます。

今の幹事社質問に関して、何か質問のある社がいましたらよろしく願います。よろしいでしょうか。

**幹事社質問：⑤統一地方選で特定候補を支援する基準は。**

では、幹事社から1点追加で質問させていただきます。統一地方選で特定の候補者等は支援せず、理念を同じくする候補者に何らかの形で応援等をしたいということですが、その中で例えばこういうことを重視して支援する候補者を決めたいとか、何か基準というか、ここは譲れないというものがありましたら教えてください。

○ 市長

具体的にどの部分にこだわるということまでは今考えておりませんが、細部というよりは基本的な方向性だと思っております。今、私たちは総合振興計画をベースにしながら、しあわせ倍増プランであるとか、成長戦略であるとか、あるいは行財政改革というプランを打ち出して、それを着実に進めていこうと取り組んでおります。

ですから、その全体の方向性、考え方ということが一緒であれば、細かい点について、こうでなければだめだということではないと考えております。そういった方向性の中でさいたま市の発展のために一緒に頑張っていこうと。やはり議会と首長の立場というのはそれぞれ違いますので、それに手放しで全部賛成ということを求めているわけではありません。方向性の中で考え方を共有できる方は、要請があれば、何らかの協力はしていきたいと思っております。

○ 埼玉新聞

何か質問ありますでしょうか。

では、幹事社質問以外に質問のある社の方は願います。

**その他質問：北陸新幹線の延伸開業等を受けて大宮駅周辺を盛り上げていく施策は。**

○日本経済新聞 日本経済新聞と申します。

年頭の挨拶でも先ほどの挨拶でも北陸新幹線の延伸開業と上野東京ラインの開通に触れられていますけれども、こういった開通で交通の結節点としての優位性が高まる中で、市としてどういった大宮駅周辺を盛り上げる施策を打っていくのか、具体的なものがあれば教えてください。

○市 長 1つは、受け皿としての大宮駅周辺のまちづくりということについては、まだ課題を抱えている、あるいは途中の状況であると認識をしています。特に今、西口については、第4地区がかなり進んできました。今度は第3地区の問題もあります。

それから、長年懸案でありました東口のまちづくりも、先ほどの挨拶の中でも申し上げましたけれども、ようやく区役所の移転建て替えが決まり、そして氷川緑道西通り線も整備に入り、そして今度は大門町2丁目中地区、こういったいわゆる先導的なプロジェクトが今年からまたさらに進んでいくことになろうと思います。

ですから、単に新幹線が開通するだけだとすると、そのまま通過されてしまうということにもなりかねませんので、ハード的な意味でまず受け皿としての都市機能を高めていこうということが1つ、それからあわせて地域と広域的な連携をして、さいたま市にとってもにぎわいにつながり、またそれぞれの地域にとってもさまざまな消費拡大や地域の活性化につながるようなことについて、お互いに連携をしながら具体的に今年度はいろいろ取り組んでいきたいと思っております。

○日本経済新聞 その広域的な連携というのは、例えば北陸新幹線だったり東北新幹線の沿線の自治体とかというご趣旨ですか。

○市 長 そうですね。そういったこともやっていきたいと。これは、経済的なつながりということもそうですし、そうではない部分も含めていろいろ考えていきたいと思っております。

### その他質問：今回の民主党代表選について。

○時事通信 時事通信です。お願いします。

あす告示の民主党代表戦について伺います。今のところ3人の方が立候補を表明されていますけれども、今回の代表戦をどのようにごらんになっ

ているのか、ご所見と、それから市長が代表としてふさわしい方がほしいれば、理由もあわせて伺いたいと思います。

- 市長      まず、3人の方々がそれぞれ出ますが、特定の方をどなたがふさわしいということは申し上げるつもりはございません。ただ、自民党あるいは与党に対抗する一つの大きな軸となる政党でありますので、政策をしっかりと党員の皆さんや、あるいは国民の皆さんの前に提示をして、しっかりと議論が行われて、そしてまさにもう一つの軸としての明確なビジョンと政策を打ち立てて代表戦に臨んでいただきたいと思っております。この小選挙区というのは、ある意味では2つの大きな勢力がぶつかり合って、そしてどちらかを国民が選択していくというのが本来のあり方だろうと思っておりますので、その中でそういった役割を果たしていけるような政党あるいは代表戦であってほしいと思っております。

- 埼玉新聞      ほかによろしいでしょうか。

### その他質問：来年度予算編成に向けての市長の考えは。

もう一問、幹事社の埼玉新聞から質問させていただきます。きょうから来年度の当初予算についての市長査定が始まると思うのですが、具体的にはまた予算発表ですとか2月議会を通じていろいろ議論されると思いますが、市長査定として、今年度こういう予算にしていきたいなというような何かお考えというか、構想がありましたらお聞かせください。

- 市長      なかなか細かいところまでは申し上げられませんが、昨年末から新年度予算の市長査定を実施しているところでございまして、平成27年度の予算編成につきましては、現時点では、歳入の根幹をなす市税の増収が見込まれてはおりますが、社会保障関連経費、また都市基盤整備や新たな施策などの財政需要の増加によりまして、所管局からの予算要求時点では、歳入が4,541億円に対しまして、歳出が4,774億円となっており、約233億円の財源不足となっていると報告を受けております。

こうした厳しい財政見通しの中で、コストの検証及び手法の精査等を徹底しまして、限られた財源を効率的、効果的に配分することによって、平成27年度予算、総合振興計画、あるいはしあわせ実感都市を実現するためのしあわせ倍增プラン、また選ばれる都市を実現するための成長戦略な

どを推進していかなければならないという状況があると考えております。

こうした中で、特に非常に今日的な行政ニーズ、しあわせ倍増プランでも子育て支援等はもちろん入っておりますけれども、国のいろいろな仕組みの変化によって生まれてくるニーズなどもございますので、そういったことも踏まえた予算編成をしっかりとしていきたいと考えております。基本は、今つくっておりますプランを着実に実現していく、そのための予算編成をしっかりと行っていくことになると思います。

○ 埼玉新聞      ほかに何かありますでしょうか。

どうもありがとうございました。以上をもちまして本日の記者からの質問を終了させていただきます。

○ 進 行      以上をもちまして市長年頭記者会見を終了させていただきます。

次回の開催は1月30日金曜日1時半からを予定しておりますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

午前11時33分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。